

友の会通信

2024
Vol.
45

～群馬県立自然史博物館友の会～

第2回友の会/

体験
活動



榛名の自然観察会

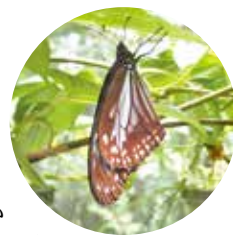
～第2回榛名の写真展と林道の生態観察を通して～



今年度総会後の講演会で県立榛名公園のアサギマダラの生態観察について講師をしていただいた群馬ナチュラリスト自然保護協議会の宮前和夫先生と同会会員のサポートを受けて榛名山の自然観察会が開催されました。

県立榛名公園ビジターセンターで同会が行っている第2回写真展について紹介が行われた後、アサギマダラの生態観察が行われている林道に移動して観察会がスタートしました。

林道を歩きながら生息している昆虫や植物を実際に手に取りふれながら、アサギマダラを取り巻く環境について解説をして頂きました。オスのアサギマダラはヨツバヒヨドリに含まれているピロリジジンアルカロイド(PA物質)が必要な事や、昨年6月の異常高温が影響したと考



えられる個体数が減少した事、周辺への影響を極力抑えて卵から成虫までの生態観察を確実にできるように設置された飼育ケージ等、重要なポイントではパネルを見ながら更に詳しく植物と昆虫の関係や、自然環境が動植物とどう関わっているか説明を受けました。

生態観察のメインとなる飼育ケージ内ではアサギマダラが一匹羽化していて参加者を出迎えてくれました。貴重なマーキング体験をして放蝶をする事ができました。

ちょっとした自然環境の変化が及ぼす影響は微妙なバランスで命をつないでいる小さな昆虫や植物に大きく作用する事を今回の観察会で知る事が出来ました。自然を見つめ直すとても有意義な時間を過ごす事ができました。(倉金 秀行)



会長挨拶

自然史博物館友の会 会長 櫻井 昭寛



今年度より友の会会長に就任しました櫻井昭寛です。

自然史博物館は、今まで地球が辿ってきた環境変化や生物の歴史、その結果としての現在の自然環境や生物についてより深く知ってもらい、地球の未来について考えてもらう場です。

私たち友の会の役割は、多くの人に博物館を知って来館してもらい、学びの場としてより上手く活用できるように、利用者の立場から博物館活動の一翼を担っていくことだと考えます。

友の会では今後も自然体験活動や研修旅行など楽しくてためになるイベントを計画していきます。これらを通じて会員同士の親交が深められればと思います。会員の皆様の積極的な参加をお待ちしております。

会長として微力ながら、そういった活動のお手伝いをさせて頂きたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

5月3日

令和5年度 友の会総会・講演会

森林や草原の生態系の変化から地球環境を考える ～県立榛名公園のアサギマダラとユウスゲの生態観察を通して～

5月3日に友の会の総会が行われました。今年度から、長い間会長を務め、会を支えてくださった柚木郁会長が顧問となり、櫻井昭寛会長へ代わることになりました。柚木会長は、「友の会は活動することによって、博物館の運営を支えるという役割があるので、長い間コロナ禍で活動に制限がかかっておりましたが、これからは活発に活動できるようになりたい」とお話してくださいました。柚木会長ありがとうございました。そしてこれからもよろしくお願いいたします。



今年度の記念公演は、群馬ナチュラルリスト自然保護協議会、宮前和夫さんと江原朔玖さんによる『森林や草原の生態系の変化から地球環境を考える～県立榛名公園のアサギマダラとユウスゲの生態観察を通して～』の発表でした。地球温暖化や土地開発などが、どのような影響を与えているのかを、生き物の観察を通して考える講演を行ってくださいました。身近なものが次々と無くなっていくという現実と向き合わなければいけないと実感させられました。
(江原 久美子)



第1回友の会/

体験活動

榛名山の自然と文化のぶらり旅 —榛名湖と榛名神社に行こう—

6月25日



6月25日(日)、29名の参加者と共に博物館の地質・岩石・鉱物分野担当の菅原久誠先生の講習に参加させていただきました。

11以上のピークの総称であり、火山由来の榛名山。掃部ヶ岳が最高峰。火砕流による溶結凝灰岩や凝灰角礫岩が多くみられました。これは、榛名神社の敷石にも使用されていました。歌川広重の浮世絵「上野榛名山雪中」が描かれた榛名神社も見学。浮世絵はゴッホも影響を受けたとか。岩石、植物、文化に触れる旅でした。(佐藤 真由美)



凝灰角礫岩の敷石



土や水の中の小さな生きものをさがしてみよう

9月3日

まだまだ日差しの暑い9月3日(日)、33名が参加して「土や水の中の小さな生きものをさがしてみよう」が実施されました。

日程・コース内容の説明後、自然史博物館周辺で土の採集が楽しく始まり、実験室へ持ち帰りました。まずは、土の中の生き物を自分の目で探し、その後、顕微鏡を調整し、何が見えるかワクワクスタートです。田んぼの水なども用意して、そちらも観察してもらい、ミジンコやボウフラなどが見つかり写真におさめる親子さん達もいました。自宅に帰りもう一度見ながら会話が弾めば嬉しいですね。その後、「ツルグレン装置」を用い、手では採集できない小さな土壤生物を探し出し、「いたいた！これ何

だろう」「えー、いないよ」などの声の中、トビムシやダニなど観察できました。

運営委員の息子さんが前日より探してくれた「乾眠で生き延びる水生動物クマムシ」を皆さんで観察し写真に残しました。家族で顕微鏡を覗き合う真剣な姿がとても印象に残り、嬉しい気持ちになりました。

私たちが何気なく歩いている地面の下は沢山の動物たちが活動し、それらの動物は「食べたり、食べられたり」の食物連鎖でつながっていることを改めて学びました。2時間半の体験活動でしたが、充実した時間になりました。

(伊丹 清美)



10月28日

ぐんま県民の日
イベント

くらやみで光る化石のレプリカをつくろう

令和5年10月28日、自然史博物館教育普及係職員の綾小路淳裕先生、橋本真里子先生を講師に迎え、友の会群馬県民の日イベント「くらやみで光る化石のレプリカをつくろう」が行われました。10月21日にレプリカを作るための材料(蓄光パウダー、石膏、食塩、水)を110個分準備しました。当日の参加者は52名(友の会14、一般38)でした。参加者は、三葉虫、ピカリア、アンモナイトの中から1つ型を選び、グループ単位ごとにスタッフの指導のもとレプリカを作成しました。作成方法は「始めに蓄光パウダーの入った紙コップに食塩、水、石膏を順に入れて、粉が見えなくなるまでかき混ぜた後、型に流し込む。次に、石膏が固まったことを確認し、型から丁寧にレプリカを取り出す」の2工程で行いました。参加者は石膏が固まるまでの20分間、館内を見学し、再び実験室に戻った後、スタッフの説明を受けながら型からレプリカを取り出しました。その際、「ヤッター」と歓声を上げたり、満面笑みを浮かべたりして満足した表情が伺えました。



当日は、親子での参加者が目立ちましたが、スタッフの連携が上手くいき、スムーズに対応でき、無事にイベントを終えることができました。作る楽しさやできた喜びを味わえる体験活動は参加者にとって有意義な時間になったと思います。今後もこうした体験型イベントの工夫を図り、自然に関する興味・関心を高め、新しい発見ができるようお手伝いしていきたいです。(渡部 淳司)

当日は、親子での参加者が目立ちましたが、スタッフの連携が上手くいき、スムーズに対応でき、無事にイベントを終えることができました。作る楽しさやできた喜びを味わえる体験活動は参加者にとって有意義な時間になったと思います。今後もこうした体験型イベントの工夫を図り、自然に関する興味・関心を高め、新しい発見ができるようお手伝いしていきたいです。(渡部 淳司)





視察研修旅行



今年度は、コロナ禍で中止していた視察研修旅行を4年振りに実施することができました。11月5日(日)に、大町山岳博物館、大王わさび農場、須坂市動物園、小布施散策と長野県内4か所を視察しました。当日は晴れて旅行日和となり、信州の広大な景色に日頃の疲れも忘れるような一日となりました。

始めの視察研修先、大町山岳博物館では北アルプスの自然と人をテーマに、山の成り立ち、山と生きもの、山と人の展示がありました。ライチョウをはじめ多くの動物の剥製、先人が山と共に暮らしていた道具の展示など視覚的に印象に残るものが多くありました。

つぎは、安曇野市にある大王わさび農場です。昼食の御膳では、本わさび、虹鱒、そばなど名物の食材が使われた食事を堪能しました。わさび農場では、きれいに整備された畑の周囲を各自で散策しました。100年以上の歴史ある農場も開拓時は寒い農閑期に開墾されたようで当時の苦勞の歴史も感じました。

後半は、須坂市動物園です。迫力のあるベンガルトラ、一方お風呂に浸かるカピバラを見て和み、いろいろな動物を身近に見ることができました。

最後は、小布施の街並みを楽しみながら名物の栗のお土産を選び帰路につきました。

景色を眺め、学び、動物に癒され、信州を満喫した楽しい視察研修旅行となりました。(山口 裕子)



友の会入会・継続のお願い

博物館への入館料が1年間無料!

その他の特典は次の3つです。

- 1 ミュージアムショップの割引
- 2 友の会行事等への参加
- 3 博物館からの情報配布

年会費

- ①一般会員……………3,000円
- ②高・大学生……………2,000円
- ③小・中学生……………1,000円
- ④家族会員……………5,000円
- ⑤賛助会員(1口)………10,000円

◎現会員の方は、引き続き入会をお願いします。また、お知り合いの方に新規加入をおすすめいただければ幸いです。

博物館利用案内

開館時間：午前9時30分～午後5時
(ただし、入館は午後4時30分まで)
休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)
その他都合により休館することがあります。
観覧料：一般510円 高校・大学生300円
中学生以下無料
※企画展開催中は、別料金になります。
※身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及びその介助者1名は無料です。

企画展情報

第69回 企画展「紳士淑女のための鉱物展」

2024年3月16日(土)～5月12日(日)

鉱物は色、光、透明感、質感などで古代から人の心を魅了してきました。その辺に転がる石ころも実は鉱物の集まりでできていて、顕微鏡で見ると宝石を散りばめたような世界にはっとさせられます。本企画展では「鉱物との出会いの場」を創ることを目的として、日本の伝統色、美しい言葉、宮沢賢治作品などを通して鉱物標本の彩りのある世界を展開します。



第70回「北極と南極～いきものたちがめぐる海と陸～」

2024年7月20日(土)～9月8日(日)
9月14日(土)～12月8日(日)

(9/9～13は観覧できません)

地球上で最も寒い場所：北極と南極。厳しくも美しい雪と氷の世界。極地のなりたちから、極寒の地に暮らす生き物たちまで、日本からは遠く離れているけれども地球の循環によってつながっています。ホッキョクグマ、アザラシの仲間、ウミガラス、アデリーペンギン、ナンキョクオキアミ、アイス・アルジーなどなど、陸と海の生き物が織りなす地球規模のダイナミックな姿をお楽しみください。



©国立極地研究所

私が見つけた自然 募集中

自分の身の周りで、かわいらしい自然を見つけたとき、珍しい自然と出会ったとき、その瞬間をカメラで記録し、写真とその時のエピソードを添えて自然史博物館の友の会へ封書またはメール(博物館担当アドレス: ayakouji@gmnh.pref.gunma.jp)でお送り下さい。会員同士、すてきな自然の情報交換の場になればと考えています。なお、応募していただいた方にすてきな賞品をプレゼントします。

